

平成 2 3 年度

(第 3 / 3 回)

(集団研修)

生物多様性保全のための

野生動物問題解決手法

実施要領

平成 2 3 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	6
11. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 研修日程
- 付表－3 カリキュラム（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：（集団研修）生物多様性保全のための野生動物問題解決手法

英文：Group Training Program on “Wildlife Issue Solutions for Biodiversity Conservation”

(2) 受入期間

平成 23 年 9 月 26 日（月）～ 12 月 3 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 23 年 10 月 3 日（月）～ 12 月 2 日（金）

(4) 定員、割当国

受入人数：6 名

割当国：インドネシア（2 名）、マレーシア（2 名）、ケニア（2 名）

(5) 対象機関：自然環境保全、森林、農業関連の公的機関または NGO

(6) 研修類型：課題解決促進型

(7) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

地球上の様々な地域において、人口増加による食糧増産への需要の高まりから農地としての土地利用が進んでいる。これに伴い、鳥獣による農林業や人身被害、新旧の伝染病（鳥インフルエンザ・ウェストナイル・慢性消耗疾患など）の発生等、野生動物と人との間の軋轢による人間側での生産性や生活の質の低下と、自然環境や生物多様性の劣化・喪失による生態系からの恩恵の減少とが同時に起きている。生産性や生活の質の向上と生物多様性の保全の両方に配慮した環境保全政策の策定が求められている。

そのためには、軋轢の原因と現状の究明、すなわち、土地利用や人間活動の現状と変化の把握（GIS の活用）や生態学的な調査を行い、それらを基に情報の蓄積、共有、公開（データベースの構築や発信）、対策に向けての社会的な仕組みの構築（住民参加型のアプロー

チ、官民協働管理)、法の整備や保護区などの見直しなどを行う必要がある。

本案件では、途上国においてまだ十分に普及していないGISの活用、データベースの構築や発信、住民参加型のアプローチなどの技術と適応方法やその考え方について研修を行い、人と自然の共生が可能な問題解決型多様性保全計画策定を目指す。

3. 案件目標

野生動物管理計画に携わっている組織において、農林業被害、感染症、人身事故といった野生動物と人間活動の軋轢を解決するための防除、解決策を含む試行計画が策定される。

4. 単元目標

本研修は3ヵ年で案件目標を達成できるように、年度ごとに定められた単元目標に沿ったカリキュラムが設定されている。

【1年次】

単元目標1：自国や日本、諸外国における野生動物問題を説明できる。

単元目標2：野生動物問題を把握するための現状調査や情報収集手法を説明できる。

単元目標3：野生動物問題を整理・分析し、問題解決の基礎資料が作成できる。

【2年次】

単元目標4：単元1～3で得られた知識や基礎資料、問題分析の結果をもとに野生動物問題の解決手法を検討し、試行計画書案の作成ができる。

【3年次】

単元目標5：試行計画案の問題分析ができ、試行計画書の最終案の作成ができる。

5. 研修成果品

1)「初期報告書(Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

2)「中間報告書(Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に中間報告書を作成し、コース終盤に発表する。

(a) 1 年次：研修で作成した野生動物問題の基礎資料および分析結果をまとめる。

(b) 2 年次：試行計画書案の作成

3)「現地活動報告書 (Progress Report)」の作成

(a) 1 年次帰国後：基礎資料や分析結果の検討および分析や改善

(b) 2 年次帰国後：自国での試行計画書案の共有と課題点の検討

4)「最終報告書 (Final Report)」の作成

3 年次本邦研修終了後、2 年次の中間計画書に記された試行計画案を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な試行計画をまとめ、帰国後 3 ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。

6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

ア. 野生動物管理計画に携わっている業務責任者

イ. 3 年以上の実務経験を有する者

ウ. 25 歳以上 45 歳以下の者

(各案件共通資格要件)

エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。

オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。

カ. TOEFL iBT 72 点 (CBT 200 点 / PBT 533 点) 以上に相当する英語能力を有すること。

キ. 心身ともに健康なこと。

ク. 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センタ

ー（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務（コースリーダーの配置を含む）を特定非営利活動法人 En Vision 環境保全事務所に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間など）

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) 特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料の手配、作成、印刷製本等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に、質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、特定非営利活動法人 En Vision 環境保全事務所らが参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
9 月 27 日（火）	集合ブリーフィング

28 日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の経済」「日本の社会と日本人、歴史・文化」 生活オリエンテーション
29 日（木） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の教育」 講義「日本の政治・行政機構」 日本語講習（夜間）
30 日（金）	日本語講習（夜間）
10 月 1 日（土）	日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 帯広市西 20 条南 6 丁目 1-2

Tel（0155）35-2001 Fax（0155）35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

研修員関連情報

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／記述読解能力の順に４段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名、県又は地名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Ms. Rikha Aryanie Surya ② D-11-04654 ③ 35 ④ 女 ⑤ インドネシア	① 森林省 ランブン州天然資源保全局 森林生態系専門員 ② 8年 ③ ボゴール農業大学（生物多様性保全・修士） ④ BBBB ⑤ なし	①・保全地域の保護、管理 ・生物多様性ならびにその生態系の保全 ・生息域内外両方での野生動物管理 ・環境教育の実施および保全プログラムに関する国民意識の啓発 ② 1 クラカタウ島自然保護区を生息地保存地区として管理し、その機能を維持 2 持続可能性の原則に基づきランブン州における生物多様性ならびにその生態系を生息域外保全として管理 3 森林保護および法的処置の最適化 4 地域の繁栄を高めることを目的に環境サービスおよびエコツーリズムを最適化 5 生物多様性の管理、保護ならびに活用において関係者間の協力および国民の意識を喚起	・野生動物管理 ・生物多様性保全
2	① Ms. Suriawati Halim ② D-11-04655 ③ 35 ④ 女 ⑤ インドネシア	① 森林省 東ボルネオ州自然保全局 森林・生物多様性保全 森林官 ② 10年 ③ ボゴール農業大学（生物多様性保全・修士） ④ BBBB ⑤ なし	①・保全地域の保護、管理 ・生物多様性ならびにその生態系の保全 ・生息域内外両方での野生動物管理 ・環境教育の実施および保全プログラムに関する国民意識の啓発 ② 1 6カ所の保護区の管理（Teluk Adang自然保護区、Teluk Apar自然保護区、Padang Luway自然保護区、Muara Kaman Sedulang自然保護区、野生動物保護区、エコツーリズム公園） 2 持続可能性の原則に基づき東ボルネオ州における生物多様性およびその生態系を生息域外保全 3 森林保護および法的処置の最適化 4 地域の繁栄を高めることを目的に環境サービスおよびエコツーリズムを最適化 5 生物多様性の管理、保護ならびに活用において関係者間の協力および国民の意識を喚起	・野生動物管理 ・生物多様性保全
3	① Ms. Nelly Chepngetich Palmer ② D-11-04101 ③ 36 ④ 女 ⑤ ケニア	① ケニア野生生物公社 野生動物・地域サービス課 上級監視員 ② 3年 ③ エガートン大学（戦略的管理・現役） ④ BBBB ⑤ イスラエル（水管理、2009年）	①・国立公園2カ所および保護区1カ所を担当しており、それら公園の内外における野生動物管理を ・野生動物用の空間を作り、人と野生動物の問題（軋轢）を解決するため、地域住民と連携 ② 後世のため、他の関係者と協力してケニアの野生動物およびその生息地を持続的に保護管理する	・地域社会による野生動物管理 ・保全ネットワークの構築
4	① Ms. Joyce Jepkosgei Kurui ② D-11-04102 ③ 29 ④ 女 ⑤ ケニア	① ケニア野生生物公社 野生動物・地域サービス課 監視員教育官 ② 3年 ③ モイ大学（地理） ④ BBAA ⑤ なし	①・保全教育プログラムの実施、監視 ・保護機関との緊密な連携の維持 ・福祉プログラムの開発、実施 ② 後世のため、他の関係者と協力してケニアの野生動物およびその生息地を持続的に保護管理する	・野生動物問題に関するデータ収集
5	① Mr. Abdullah Zawawi Yazid ② D-11-04537 ③ 31 ④ 男 ⑤ マレーシア	① マレーシア半島野生動物保護・国立公園管理局 Kedah州野生動物管理課 野生動物担当 ② 4年 ③ プトラ大学（森林科学） ④ BBBB ⑤ なし	①・Kedah州における人と動物の対立を扱う野生動物管理ユニットの統括 ・ <i>Macaca fascicularis</i> との衝突を軽減するため、Kedah州『マカカ活動計画』を計画、監視 ・衝突地域から野生動物保護区または国立公園へ野生動物を移動 ②・最適効果を得るため、生物多様性を保護、管理ならびに保存 ・研究、教育、経済、美学、娯楽ならびに生態上の目的のために保護区を保護、整備 ・生物多様性保全の重要性に関する知識、意識ならびに民衆の支持を強化	・野生動物と人間の摩擦を解消するための技術、取り組み
6	① Mr. Fred Tuh Yit Yu ② D-11-04538 ③ 34 ④ 男 ⑤ マレーシア	① サバ公園 研究・教育課 研究担当官（代 ② 3年 ③ マレーシア公開大学（管理） ④ BCBB ⑤ JICA（青年研修・保全、2010年）	①・動物学および昆虫学ユニットの統括 ② サバ公園として設けられた自然区域を保護、維持、保存ならびに保全すると同時にそこをマレーシア人特にサバ州の人々が誇れる自然遺産の一つとすること	・国立公園

研修日程

項目	月／日	曜	時間	区分	内容	担当	研修場所	宿泊
事前研修	9/26	月			来日			
	9/27	火	9:30-16:50		入館式/JICAブリーフィング・集合ブリーフィング			
	9/28	水	9:00-16:50		ジェネラルオリエンテーション			
	9/29	木	9:45-19:00		ジェネラルオリエンテーション/日本語講習			
	9/30	金	10:00-15:00	講義	発表会準備	公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター	JICA帯広	
			16:00-19:00		日本語集中講座			
	10/1	土	9:30-14:30		日本語集中講座			
単元目標1: 日本の野生動物保護管理の 現状(野生動物問題の背景、 対策、管理体制、関連法 規等の国内外事例紹介)	10/2	日			休日			
	10/3	月	10:00-12:00		プログラムオリエンテーション (オリエンテーションルーム)	EnVision環境保全事務所 赤松 里香		
			13:00-15:00	講義	インセプションレポート発表会 (オリエンテーションルーム)	EnVision環境保全事務所 赤松・金子・立木・早稲田、 自然 山口、酪農吉田、岡本		
			15:30-16:30		Welcome Tea Party (1F 会議室)	EnVision環境保全事務所 赤松・金子・立木・早稲田、 自然 山口、酪農吉田、岡本		
	10/4	火	9:00-12:00	講義	G I S と野生動物管理	酪農学園大学 吉田 剛司		
			13:00-16:00	講義	インテリムレポート説明	EnVision環境保全事務所 赤松 里香 岡本 葉子		
	10/5	水	9:00-12:00	実習	GIS入門	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香	JICA帯広	JICA帯広
			13:00-16:00	実習	GIS入門・衛星画像選定	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香	セミナールーム3	
	10/6	木	9:00-16:00	実習	GIS入門	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	10/7	金	9:00-12:00	実習	GIS入門	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
			13:00-16:00	講義	振り返り	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	10/8	土			休日(ホームビジット)			
	10/9	日			休日			
	10/10	月			休日			
	10/11	火	9:00-12:00	講義	振り返り・視察説明	EnVision環境保全事務所 赤松 里香		
			13:00-16:00	講義	日本・北海道の自然と保全	酪農学園大学 赤坂 猛		
	10/12	水	9:00-12:00	講義	野生動物とヒトの交通事故	野呂 美沙子	JICA帯広	JICA帯広 セミナールーム3
			13:00-16:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一・立木靖之		
			17:00-20:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一・立木靖之		
	10/13	木	10:00-12:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一・立木靖之		
			13:00-16:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一・立木靖之		
	10/14	金			休日			
道東視察	10/15	土	9:00-12:00		休日			旅館「より道」
			12:00-16:30		移動(帯広⇒霧多布)			
	10/16	日	9:00-15:30	講義・実習	地域住民・小学生・企業ボランティアと木道修理実習	霧多布湿原トラスト 高井 文子	霧多布トラスト周辺	
			17:00-19:00		地域住民、企業ボランティアと交流会			
	10/17	月	9:00-12:00	講義	霧多布トラスト活動紹介&ディスカッション	霧多布湿原トラスト 高井 文子		
			12:30-15:30	講義・実習	ケンボッキツアー	霧多布湿原トラスト 瓜田 勝也	霧多布湿原トラスト ケンボッキ島	羅臼・ホテル
	10/18	火	9:00-12:00	視察・講義	羅臼ビジターセンター視察& 「知床国立公園の管理と財団の活動について」	知床財団 新藤 薫	羅臼ビジターセンター 知床財団	ウトロ・ホテル
			12:00-13:30		移動(羅臼⇒ウトロ)			
道外視察	10/19	水	9:00-12:00	視察・講義	五湖視察&「新しい制度・対策について」	知床財団 寺山 元	知床財団	知床財団
			12:00-14:00	視察・講義	エコロード(交通事故対策について)	EnVision環境保全事務所 赤松 里香		
	10/20	木	9:15-9:45		移動(ウトロ⇒帯広)			JICA帯広
			14:00-19:00					
	10/21	金			自主学習(GIS復習等)/OFF			
			9:15-9:45		市長表敬訪問	EnVision環境保全事務所 赤松 里香		
	10/22	土	13:30-16:30	講義	自主学習(GIS復習等)/OFF			兵庫県三田・ホテル
				講義	振り返り	EnVision環境保全事務所 赤松 里香		
	10/23	日	10:00-16:00		移動(帯広⇒三田)			兵庫県立 人と自然の博物館
			9:00-12:00	講義	野生動物保護管理	EnVision環境保全事務所 赤松 里香		
	10/24	月	13:00-16:00	講義	環境保全に向けた情報の共有と環境教育	兵庫県立人と自然の博物館 三橋 弘宗		兵庫県丹波・ホテル
			16:00-18:00		移動(三田⇒丹波)			
	10/25	火	9:00-12:00	視察	兵庫県における野生動物問題(主にサル、移入種)解決に 向けた調査、対策、研究	兵庫県森林動物研究センター 坂田 宏志	兵庫県 森林動物研究センター	豊岡パークホテル
			13:30-15:30		移動(丹波⇒豊岡)			
	10/26	水	9:30-12:00	講義・視察	兵庫県立コウノトリの郷公園(豊岡市))	兵庫県コウノトリの郷公園 三橋 陽子	兵庫県コウノトリの郷公園	近江八幡市 ホテル
			13:00-17:00		移動(豊岡⇒大津または近江八幡)			
	10/27	木	9:00-12:00	講義・視察	滋賀県における集落ぐるみのニホンザル対策の取り組み	滋賀県農業技術振興センター 寺本 憲之	滋賀県農業技術 振興センター	滋賀県立琵琶湖博物館
			13:00-15:00					
	10/28	金	10:00-12:00	講義	カワウの科学的データに基いた対策の重要性	滋賀県立琵琶湖博物館 亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館	JICA東京
			13:00-15:00	講義・視察	「こまったカワウ」展視察他	滋賀県立琵琶湖博物館 亀田 佳代子		
	10/29	土	15:00-18:30		移動(草津⇒東京)			山梨 生物多様性センター
			9:00-12:00		移動(東京⇒富士吉田)			
	10/30	日	13:00-16:00	講義	生物多様性データベース&モニタリング	生物多様性センター		JICA帯広
			16:30-19:30		移動(富士吉田⇒東京)			
	10/31	月	9:00-12:00	講義	生物多様性保全に向けた取り組みの国際的動向	コンサベーション・インターナショナル 名取 洋司	JICA東京	
			13:00-19:00		移動(東京⇒帯広)			
					休日			

付表-2

GIS(野生動物管理につながる活用方法) 単元目標2:野生動物問題の現状把握手法概説、 単元目標3:調査データや情報のデータベース化、その管理と運用	11/1	火	10:00-12:00		振り返り	EnVision環境保全事務所 赤松里香	JICA帯広 11/1~11/4 セミナールーム2	JICA帯広
			13:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
	11/2	水	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
	11/3	木	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
	11/4	金	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
	11/5	土			休日			
	11/6	日			休日			
	11/7	月	8:30-12:00	移動	移動(帯広→江別)		酪農学園大学	JICA札幌
			13:00-16:00	講義	オリエンテーション	EnVision環境保全事務所 金子 正美・赤松 里香		
	11/8	火	9:00-12:00	講義・実習	GISとは	EnVision環境保全事務所 金子 正美・赤松 里香		
			13:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方・ガンゾリク		
	11/9	水	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方・ガンゾリク		
	11/10	木	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方・ガンゾリク		
	11/11	金	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方・ガンゾリク		
	11/12	土	10:00-16:00	講義・視察	野生動物問題解決における動物園の取り組み&園内視察	酪農学園大学 吉田 剛司・小菅 千絵	円山動物公園	
	11/13	日			休日			
	11/14	月	9:00-16:00	講義・実習	GPS実習	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香	酪農学園大学	JICA札幌
	11/15	火	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング応用	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	11/16	水	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング応用	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	11/17	木	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング応用	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	11/18	金	9:00-16:00		GISの実践・応用	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	11/19	土			休日			
	11/20	日			休日			
	11/21	月	9:00-16:00	講義・実習	GISの実践・応用	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香	酪農学園大学	JICA札幌
	11/22	火	9:00-16:00	講義・実習	GISの実践・応用	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	11/23	水	9:00-16:00	講義・実習	振り返り	EnVision環境保全事務所 日野 彰彦・赤松 里香		
	11/24	木	9:00-12:00	講義	情報公開の手法	EnVision環境保全事務所 田中克佳	JICA札幌 セミナールーム1	JICA帯広
			13:00-16:00	講義・実習	情報公開の手法	EnVision環境保全事務所 田中克佳・藤川三博		
	11/25	金	9:00-12:00	講義・実習	都市の野生動物問題	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一・立木靖之		
			13:00-16:00		①社会的価値観の変化と自然管理について ②ゾーニングシステムの考え方	自然環境コンサルタント 山口 和男		
	11/26	土	8:30-12:00	移動	移動(札幌→帯広)			
	11/27	日			休日			
単元目標3:問題解決の基礎資料作成	11/28	月	9:00-16:00	講義・実習	アクションプランの作成	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子	JICA帯広 11/28~12/1 セミナールーム2	JICA帯広
	11/29	火	9:00-16:00	講義・実習	アクションプランの作成	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子		
	11/30	水	9:00-16:00	講義・実習	アクションプランの作成	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子		
	12/1	木	9:00-16:00	討議	まとめ討議	EnVision環境保全事務所 赤松里香、日野 彰彦 岡本 葉子		
	12/2	金	9:00-12:00		アクションプラン発表会 (オリエンテーションルーム)	自然環境コンサルタント 山口和男 岡本葉子 EnVision環境保全事務所 金子・赤松・立木・日野・山本	JICA帯広	
			13:30-14:00		評価会 (セミナールーム2)	EnVision環境保全事務所 金子正美・赤松 里香		
			14:00-14:30		閉講式 (セミナールーム4)	自然環境コンサルタント 山口和男 岡本葉子 EnVision環境保全事務所 金子・赤松・立木・日野・山本		
			15:00-		閉講パーティ (1F 会議室)	国際協力機構		
	12/3	土			帰国			

科 目	講義	実習	視察	討論	講義内容
単元目標 1：自国や日本、諸外国における野生動物問題を説明できる。					
日本における鳥獣保護管理のしくみ、日本・北海道の自然	0.5				日本における鳥獣保護管理や農林業被害対策行政の理念と施策等の取り組みについて学び、自国において活用できる点を見出す。
農林業被害とその対策事例	1		1.5		国内外の農林業被害の背景、実体とその対策を理解する。
地域絶滅種の野生復帰			0.5		地域絶滅種を再導入し野生復帰させるためには、地域住民の主体的なかわりが重要であることを理解する。
人身事故とその対策事例	0.5				国内外の感染症・疫学・人身事故とその対策を理解する。
地域住民と環境教育/エコツアー	2.5	2.5			地域住民との情報共有、啓発、協働を目的とした環境教育について様々な事例を通じて学ぶ。
生物多様性と保全活動の国際的動向	0.5				生物多様性保全必要性、COP10後の動向、国際的取り決め、国際的生物多様性保全活動について理解を深め、地域住民に説明できるようになる。
単元目標 2：野生動物問題を把握するための現状調査や情報収集手法を説明できる。					
社会調査手法概論	1.5	1			野生動物と人の間で起こる問題を把握するために、社会学的調査手法を学び住民主体の活動事例を理解する。
PCM手法	2	2.5			地域住民の参加による課題の抽出と解決手法の基礎を学ぶ。
野生動物の調査法概論	1.5	1			野生動物問題を把握するための野外調査方法を学ぶ。（テレメトリー、GPS、自覚撮影装置、データ収集と蓄積）
単元目標 3：野生動物問題を整理・分析し問題解決の基礎資料が作成できる。					
調査データの管理と情報システムの構築	1	0.5			調査データや情報のデータベース化、その管理と運用について基礎的な理論と実習を行う
GIS手法を学ぶ	0.5	3			GISソフトウェアを使用し、GIS手法の基礎を学ぶ
GISを用いた情報の作成、表示、解析手法	1	2			地形情報並びにリモートセンシングデータなどの基盤情報を用い、GIS手法によって評価・解析する手法を学ぶ
リモートセンシング入門・応用	3	4.5			リモートセンシングの理論並びに最新の技術動向、基本的な処理方法について学ぶ。 リモートセンシングの応用としての利用事例について学ぶ。 GISとリモートセンシング手法を一連の処理技術として理解し、問題解決手段としてのそれぞれの位置づけについて学ぶ
単元目標 4：単元 1 から 3 で得られてた知識や基礎資料、問題分析の結果をもとに野生動物問題解決手法を検討し、試行計画案の作成ができる。					
振返り				3	コースリーダーの指導を中心に、テーマごとにふりかえりを行う。
インテリム・レポートの作成指導		2		2.5	コースリーダーの指導のもと、自国における野生動物問題対策の試行計画案を作成する。
合計	15.5	19	2	5.5	

年 度 別 受 入 実 績 表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	累計
応募数	8名	7名	6名	21名
受入数	8名	5名	6名	19名

2. 国別受入人数

○男性●女性

国名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	累計
インドネシア	○○●	○	●●	6名
マレーシア	○○	○○	○○	6名
ケニア	○○●	○○	●●	7名
計	3カ国	3カ国	3カ国	3カ国
	8名	5名	6名	19名